

OPI の質問内容による難易度の違い

: 「きっかけ」を聞く質問を焦点に

堀恵子（筑波大学）・大隅紀子（東京大学）・世良時子（成蹊大学）

キーワード：発話能力、国研コーパス、談話、結束性、突き上げ

1. はじめに

本研究は、OPIにおいて被験者の発話能力を最大限に引き出す効果的な質問を探る研究として、「きっかけ」を聞く質問に対する被験者の回答についてコーパス調査を行い、「きっかけ」を聞く質問が中級、上級、超級というレベルを分けることができる質問の1つとなり得ると主張するものである。

2. 研究の背景と目的

2. 1 OPI 質問の困難点と先行研究の取り組み

ACTFL-OPI 試験官養成マニュアル(1999) (以下、『マニュアル』)には、レベルごとに効果的な質問の型が示されており、テストの指針となっている。しかし、「自由回答型の依頼表現」、「比較を求める」、「裏付けのある意見を求める」との型が示され、「どうして～」などの例が示されて入るものの、テストにとってそれらを参考に瞬時に被験者に合わせて効果的な質問を繰り出すことは容易ではなく、大きな課題となっている(齊藤 2010, 渡辺 2010)。

そこで、インタビュー技術を向上させるための提言もなされてきた(齊藤 2010, 嶋田 2010 ほか)。また、大隅・堀(2018)は、国立国語研究所『日本語学習者会話データベース』(以下、「国研コーパス」)を用い、上級、超級話者の発話抽出における効果的な談話構成と、言語表現、キーワードを使用した質問ストラテジーなどを示した。コーパス調査に基づく点でより一般的に応用できる可能性を示しているが、詳細説明要求、意見要求という談話展開で使える具体的な質問内容には踏み込んでいない。

2. 2 質問の困難度と「きっかけ」談話

一般的に質問には答えるのがやさしい質問もあれば、難しい質問もある。『マニュアル』が示している各レベルの効果的な質問は、話題を展開させる質問(中級)→詳細な説明描写をさせる質問(上級)→裏付けのある意見を求める質問(超級)→仮説を要求する質問(超級)であり、この順に難易度が上がると言える。OPIのレベルチェックでは順に質問の難易度を上げていくことになるが、ある程度幅広い受験者に対して使用でき、早い段階で主要レベルを確定するのに効果的な質問があれば、より早く正確に判定のための適切な証拠が得られる。

筆者らは国研コーパスの中で「きっかけ」を聞く質問が幅広いレベルで使用されていることに着目した。「きっかけ」は過去の事実を聞く質問であるため、詳細な説明描写をさせる質問と言えるだろう。そのため、超級への突き上げにそれだけでは使えないが、それ以外の段階で聞きやすい話題と見られる。そこで、回答にレベルによる顕著な差が見いだせれば、効果的な質問であると言える。

2. 3 本研究の目的

以上から、本研究では「国研コーパス」を対象とし、「きっかけ」を聞く質問に対する回答(以下、「きっかけ」談話)を記述統計的・質的に分析し、どのような差があるかを調査する。その上で、OPIに効果的であるか検討する。

3. 調査の対象

「国研コーパス」は、『縦断調査編』追加文字化データを含め 379 データがあり、「きっかけ」談話を含む会話は、受験者が答えられなかった会話も含め、のべ 49 会話である。本研究ではこの 49 会話を対象とする。

4. 分析

4. 1 記述統計的分析

「きっかけ」談話を含む会話のレベル別会話数と、「きっかけ」談話部分のレベル別平均文字数を表 1 に示す。文字数は、書き起こしテキストからテストの相づちや記号を除いた数である。中級-下では、3 会話のうち被験者が答えられた会話は 1 つであった。上級-上には「きっかけ」談話が見られなかった。

図 1 に示すように、中級-上と上級-下にははぐれ値が見られたため、表 1 の最右列にははぐれ値を除いた修正された平均文字数を載せている。その結果、平均文字数は中級-上から上級-中までほぼ横ばいで、一方、超級は突出して多いことがわかる。

次に、話題をまとめると (表 2)、日本語学習、来日など日本語に関わる話題が多く、続いて職業選択、専攻選択など人生の重大な選択について聞いていることが分かる。レベルによる話題の偏りは見られなかった。

4. 2 質的分析

4. 2. 1 「きっかけ」談話の展開

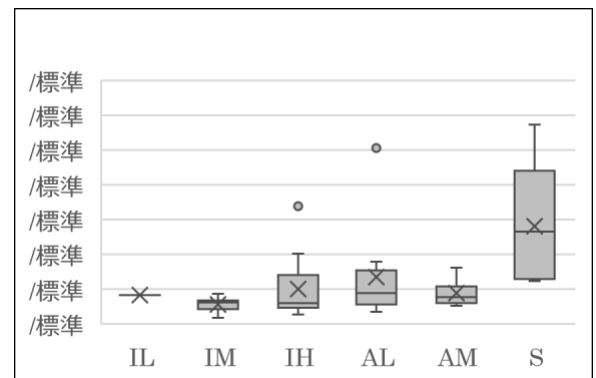
十分に展開された「きっかけ」談話は、最低限 4 つの部分からなる。①元の状況、②その時の考え、③きっかけとなるできごと、④その時の考え、である。その他、「きっかけ」の概要やまとめなどが適宜挿入される。下の「きっかけ」談話例は、超級話者の会話からフィラー、テストの相づちなどを除いて、簡略化して示したものである。②と③の間に概要を示す段落と、最後にまとめが加えられ、全体として複段落を形成している。

「きっかけ」談話例：超級 (追加データ 発話番号 7)

① 元の状況	元々、わたしは、【地名 1】と言うところ、中国では、少数民族の地域で、小さい頃から、いろんな言語に触れる機会があったんですね。(略)
② その時の考え	子供ん時から、いろんな言語に興味があって、で、その中の、外国語、大学では、外国は勉強できればいいかなと思ってたんですが
きっかけ概要	日本語を勉強するきっかけってゆうのは (略) 日本のアニメが好きだったんですね。
③ きっかけ	で、中国、私、小学校のとき、中国には、日本のいろんなアニメが輸入されていて、
④ 考え(1)	なんかそれを見て、すごく面白くて、
⑤ 考え(2)	あと、やっぱり日本語で、元の言語で、そのアニメ見たいなという、あの夢があって、
まとめ	で、それで、その後、日本語を専攻することと繋がったかもしれないんですね。

<表 1> 「きっかけ」談話を含むレベル別会話数と文字数

レベル	会話数	平均文字数	修正平均文字数
超級	5	561.4	561.4
上級-上	0	-	-
上級-中	8	176.1	176.1
上級-下	9	268.9	175.9
中級-上	13	201.2	161.4
中級-中	11	112.3	112.3
中級-下	3	168	168



<図 1> 「きっかけ」談話のレベル別平均文字数

<表 2> 「きっかけ」談話の話題数

話題	会話数
日本語学習	11
来日	7
職業選択	7
趣味	6
専攻選択	5
日本への興味	5
進学選択	2
アルバイト	1
日本滞在延長	1
その他	4
合計	49

他の超絶話者の会話では、テスターがさらに深く聞き、現在の職業に直接つながる談話を引き出すのに成功している。下では、テスターの質問に焦点を当て、話者の発話内容は概要のみを示す。

超絶話者（発話番号 0015）「きっかけ」談話

テスター	じゃそのきっかけみたいなのはなんだったんでしょうか
被験者	[子供の時見た映画で外国人が韓国語を上手に話すのを不思議だと思い、吹き替えだと知った。高校生のとき詳細な情報を得て、声優をめざすことになった]
テスター	でそのときその小さいときに、不思議だなと思ったのが〈はい〉そのずーっと持続するっていうのはでもなんかいろいろ、 <u>そのあいだにもいろいろ、なんかあったんでしょうか</u> 〈えー〉、 <u>さらにこう、深まるようななんか</u>
被験者	[日本のアニメから日本の声優の演技や声に触れて、もっと声優に興味を持つようになった]

4. 2. 2 上級の例

上級の平均文字数に近い発話（発話番号 0175）を示す（相づちは省略）。音楽大学を卒業した後漫画家を目指して日本で勉強しているという自己紹介の後、どういふきっかけで漫画家になりたいと思ったかを質問された回答である。この後、テスターから楽器に関する質問が出されている。「きっかけ」談話では、本来漫画が好きだったが、親の言うなりに音楽大学に進み、約束通り大学は出たので、今は本来やりたかった漫画家を目指しているというニュアンスは十分には表現できていない。

上級話者（発話番号 0175）の「きっかけ」談話（文字数 179 文字）

① 元の状況	えーいつも [いつも] なんか、んー、なんか落書きと、っか [とか] は、ちびのころからーいちゅも [いつも] やっていたことだし、
② その時の考え	んー、漫画をえと、好きーだったんですよく、
③ きっかけ	でもえ、えーむしろなんというか、お、音楽大学に行く、理由がなんか、親から、「音楽だいがっくー [大学] さえそちゅぎょ [卒業] すれば、おまえが好きなことやってもいい」というきかれて {笑}
結果	だからえっと音楽大学にいいたん、行ったわけなんですけど、ん

その後、音楽の話の後で、「いつもやりたかったというか えと、自分がほんとに好きなことをやっ、て生きるのが幸せじゃないかなと思って」と述べており、ここでようやく「本来の志望が漫画家であり、今はそれができて幸せであること」が聞き手に伝わる。この「きっかけ」談話は 2 つの段落からなるが、意図を十分に伝える**結束性のある複段落**（『マニュアル』:103）には至っていない。

4. 4 中級の例

中級の平均文字数に近い発話（発話番号 0151）は、車のエンジニアになるつもりであり、車に興味を持ったきっかけを問われて、以下のように、2 つのきっかけを答えている。

上級話者（発話番号 0151）の「きっかけ」談話（文字数 125 文字）

④ きっかけ	きっかけ [きっかけ] ですか、んー、んー高校生のとき、んー、テレビれー [で]、なんか、タイの、モト、モト、モーターショーとか、あります、あーんとても有名な、なんかじゅめい [有名] な、車がたくさんあります
② 考え	そこで、あー、ざしか、見て、なんか、つく、車を作る人になりたいなと思いました
③ きっかけ	はいそれに、なんか、私の、県は、んー、おおきーな [大きな]、んー車、会社が、車本社、ありますから、日本の、日本の、【会社名 D】がいしゃー [会社] です、はい、今は私の県は、その会社、が、有名です
② 考え	私が、その会社に、働きたいです

きっかけとその時の考えを簡単な文で表しており、接続詞（「そこで」など）も適切に使用しているが、この談話全体が緊密な段落を形成しているとはまでは言えない。

また、IL では3名がきっかけについて質問され、うち2名は「きっかけ」という語が理解できず答えられなかった。さらにテストターが「どうして」を使って理由を聞こうとしたが、成功しなかった。

4. 5 まとめ

以上、記述統計的・質的分析から、3点が指摘できる。

- (1) 「きっかけ」を聞く質問に対する回答は、中級-中から安定的に抽出されている。
- (2) 話題は、日本語、来日、人生の重大な選択などに関するもので、レベルによる偏りはない。
- (3) 中級→上級→超級と進むと、文→段落→複段落というテキストの型が明確に出現する。

よって、中級から超級まで広く使用でき、テストターが効果的に使える質問であると言える。

5. OPI への応用と今後の課題

「きっかけ」談話を OPI の中で有効に使うために、本研究では会話の分析から3点を提案する。

- (1) 話題の観点から、中級以上と思われる話者に対して OPI の早い段階で使用する。
- (2) テキストの型から主要レベルを確定するためのレベルチェックの1つとして使用する。
- (3) 「きっかけ」談話は、過去の事実の詳細な説明描写であることから、レベルに応じてより内容を深める質問を加えたり、キーワードを使って意見、仮説を聞く質問へとつなげていく。

限られた時間で適切な突き上げをすることは難しいが、早い段階で主要レベルを確定できれば、それに応じた適切な質問につなげていくことができる。「きっかけ」を聞くことは、幅広い被験者に対して OPI の早い段階で話題にし、主要レベルを確定する証拠を得るために有効な質問であると言える。

今後の課題として、他の話題でも縦断的な調査を行い、OPI にとって有効な質問を探っていきたい。

謝辞 本研究は JSPS 科研費 17K02865 の助成を受けたものです。

参考文献

大隅紀子・堀恵子(2018)「上・超級話者の発話を引き出すための談話展開と効果的な質問」、『日本語プロフィシエンシー研究』6,69-87.

齊藤真理子(2010)「上級レベルの発話抽出と判定における注意点」、『日本語 OPI 研究会 20 周年記念論文集・報告書』19-29. 日本語 OPI 研究会

嶋田和子(2010)「インタビュー技術の向上をめざして—効果的な発話抽出のためにすべきこと—」、『日本語 OPI 研究会 20 周年記念論文集・報告書』30-44. 日本語 OPI 研究会

牧野成一監修・日本語 OPI 研究会翻訳プロジェクトチーム翻訳(1999)『ACTFL-OPI 試験官養成マニュアル(1999 年改訂版)』アルク

渡辺素和子(2010)「超級レベルにおける意見叙述・仮説抽出法：問題点と対策」、『日本語 OPI 研究会 20 周年記念論文集・報告書』45-54. 日本語 OPI 研究会

コーパス資料

国立国語研究所『日本語学習者会話データベース』(2008) (<<https://mmsrv.ninjal.ac.jp/kaiwa/index.html>>) 『日本語学習者会話データベース 縦断調査編』(2008) (<https://mmsrv.ninjal.ac.jp/judan_db/>)(2019 年 6 月 2 日検索)